

会 議 録

会議名	平成25年度 第2回印西市子ども・子育て会議
開催日時	平成26年3月27日(木) 午後1時30分から午後3時まで
開催場所	印西市役所 204会議室
出席委員	西村 信会長、古賀 知世委員、梅元 妙子委員、西林 千秋委員、古賀 一人委員、 岩井 基委員、小谷 博子委員、前田 陽子委員、服部 光子委員 計9名
欠席委員	小島 喜美代委員、佐藤 美智代委員 計2名
出席職員等	[事務局] 高橋健康福祉部長、保育課 伊藤 哲之、小作 公哉、杉森 俊彦 [関係課] 子育て支援課 岩井 太一、武藤 克則、斉藤 直美 学務課 海老原 裕之、河合 浩 [コンサル] 株式会社 まち研 研究員 浜田 守、本間 洋美
傍聴者	1名
会議次第 議 題	1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 協 議 等 (1) 子ども・子育て支援事業計画の概要について【資料1、追加資料1、2、4】 (2) 利用希望把握調査等の結果について【アンケート調査結果報告書(案)、追加資料3】 (3) 今後のスケジュールについて (4) そ の 他 4. そ の 他 5. 閉 会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度 第2回印西市子ども・子育て会議 会議次第 ・【資料1】市町村子ども・子育て支援事業計画のイメージ等 ・【資料2】アンケート調査結果報告書(案) ・【追加資料1】人口・世帯数の推移等 ・【追加資料2】印西市の待機児童数の推移等 ・【追加資料3】全国共通で「量の見込み」を算出する項目 ・【追加資料4】子ども・子育て支援事業計画目次構成案(イメージ) ・【参考資料】リーフレット「おしえて!子ども・子育て支援新制度」

会議概要・審議経過

1 開会

◆資料等の確認(事務局)

○資料の確認。

資料及び追加資料の確認。

○会議の公開と傍聴規定について

会議は原則公開とすること、及び傍聴要領に基づいて傍聴をしていただくこと、本日の傍聴者は1名であることを報告。

○会議の録音及び会議録の署名

録音の承諾と、会議録の作成および署名についてのお願い。署名者は、西林委員・西村会長。

○会議の開催について

会議の開催についての定足数について説明。本日の会議は成立することをご報告。2名の委員が欠席の報告。

2 会長あいさつ

西村会長からのあいさつ

3 協議等

(1) 子ども・子育て支援事業計画の概要等について

○事務局より説明

○概要等について質疑

【小谷委員】追加資料2について。千葉県内の待機児童数の表によると、人口1万人当たりの人数は印西市が突出している、このことに対する対策は？また、国から指導を受けるということはないか。このような人口増加は印西市特有であるので、市としての考えをうかがいたい。

【事務局】市としては、認可保育所を増やしていくということに力を注いでいる。平成24年4月には80人定員の認可保育園が開園したが、平成25年度の新規開園はなく、待機児童数は増加している。26年春には72人定員及び90人定員の認可保育園が開園し、秋には75人定員及び40人定員の認可保育園の開園が予定されている。また、認可保育園だけでは賄えない部分については、小規模保育や家庭的保育といったものも活用しながら待機児童が出ないように取り組んでいきたい。

【小谷委員】追加資料1の未就学児の推移というところで、若い世帯を中心とした人口の増加により未就学児が増えているものと思うが、こういうことは北総線沿線地域の特徴なのか、それとも、印西市独自の現象なのかうかがいたい。

【事務局】隣の白井市と比較すると、白井市はニュータウンが成熟しているので、印西市ほど待機児童はいない。印西市は千葉ニュータウン事業の中心部分であり、今後も大きなマンション分譲を控えているということで、印西独自のものと思われる。

【小谷委員】10年後には、生まれてくる子どもが再び減るということか。

【事務局】千葉ニュータウン区域の今後の分譲予定は非常につかみづらいが、これまでの傾向では、大規模な分譲があれば、10年くらいはそのエリア内の児童数は増えるが、それ以降は減っていく。千葉ニュータウン内の土地は、徐々に売れていくという現状を考えると、10年ではなく、もっと長いスパンで考える事も必要。

【梅元委員】追加資料3について、印西市ではショートステイを行って、今後行っていくのか？

【事務局】夜間保育では、現在、スマイル保育園で一時預かり事業などで夜間保育に対応している。ショー

トステイについては未実施であり、夜間に預けたい方への対応は他市と比較すると弱い、どれだけの需要があるかということと関連するので、調査結果を見て、やるべきかやらないべきか、やるとすればどれだけ必要かということを検討していくことになる。

【古賀一人委員】幼稚園預かり保育に関する支援は？行政のバックアップがある市もありますが、印西市の、今後の幼稚園への支援をお聞きしたい。

【事務局】今回のアンケート調査結果を基に、各サービスの量の見込みと確保方策を検討し、印西市としての5年間の計画を立てていくが、幼稚園の一時預かりについては、支援を検討しています。

【古賀知世委員】私立幼稚園には、一時預かりで働くお母さんへの支援はありますが、公立では一時預かりの話はない。

【事務局】公立幼稚園は預かり保育はやっていない。今回のアンケート調査の結果を踏まえ、方向性を検討する。なお、「調査結果のまとめ」では、「幼稚園預かり保育」の意向は比較的高い。

【岩井委員】保育園としては、市の計画や国の動向に合わせていくということになるが、認定こども園制度も含め、今後こういった形にしていくかについては検討中である。

【事務局】今回の計画は、需要に対する受け皿等の確保方策を示すものである。印西市の現状だけを見ると、やはり0.1.2歳児の保育園の待機児童が多く、3.4.5歳児については、保育園、幼稚園である程度充足されており、0.1.2歳児の受け皿を広げることが大きな課題となる。幼稚園が認定こども園になると0.1.2歳の枠が増えることから、待機児童解消の手法の一つとして、認定こども園化は大きなメリットがあると思われる。各園の意向を確認しながら方策を積み上げていくことになる。

【西村会長】幼稚園側としては、保育園が認定こども園になることに不安という声もある。

【岩井委員】保育園側としては、幼稚園が認定こども園化を拒否するのではないかという声もある。

【梅元委員】保育園ママからすると、認定こども園となった場合、今までの子どもの目標や進む方向ガラッと変わり、子どもが対応できるか心配している。保育園ののびのびした環境から、認定こども園になって幼稚園的要素が入ってくると、子どもが果たして順応できるかというのが、親の気持ちである。

【岩井委員】保育園の研修会で園長が集まると、「教育、教育といわれるが、保育園が教育をしていないわけではない」という意見がある。保育園でも教育的な部分はやっており、読み書きというよりも、理念に沿って教育や道徳をやっている。自分は、幼稚園要領を入れたからと言って、園の方針を極端に変えることは考えていない。

【西村会長】幼稚園と保育園とで情報交換した方が、印西市全体としてはいいと思う。

【古賀一人委員】保育園でパートの方が預けやすくなると、幼稚園としては不安。現在、保護者がパートタイマーで、幼稚園を利用する方は多い。

【西村会長】「保育に欠ける」というより、「保育が必要」ということになってきている。施設型給付に変わり、公定価格が決まるまではどうなるかわからない。千葉県認定こども園の会合に行くと、5月の下旬に金額が決まったら、国が宣伝するといっていた。宿題はこっち（施設側）にある。

【小谷委員】認定こども園の場合、幼稚園教諭と保育士免許の両方を資格として持っていないと採用しないことになる。両方取得するという学生は全員ではない。実際に現場はどうなるのか、施設を作っても人手が足りなくなるのでは、ということが心配。

(2) 利用希望把握調査等の結果について

○事務局より説明（小作氏）

○質疑

【小谷委員】調査の中（8ページ）に、子育てして苦労したことで「お金がかかりすぎたこと」という。高校以上になると通学に使う北総線の運賃が高いことが要因ということか。今から対策を練っていくことが大切。子どもが小さいときは満足度が高い。お金がかかったということは、ほかの地域よりというこ

とか。また、保育園の先生が集まらないという話があるが、中高生の時の保育園体験が重要。保育園などで働きたいとか…大学や社会に出る前のこととして、地元に残りたいということも含めた、子育て支援が大切。

【前田委員】私の子どもは、将来は保育士になりたいという希望がある。小・中学生の時、保育園に職業体験に行った。将来の気持ちがあれば、保育科のある短大の系列校なども検討した。友人には、将来就職したい幼稚園まで決めている子もいた。職場体験の成果なのか、男の子でも保育士になりたいという子もいる。

【事務局】8ページの子どものデータは地区別に集計可能。お金がかかった理由は回答ではわからないが、地区別に集計して傾向をみる。

【小谷委員】調査票の送付先に偏りはないか？

【事務局】対象者は無作為で抽出し実施している。

【梅元委員】幼稚園もお金はかかり、時間外の請求もされる。上の子は学童保育で、下の子が保育園で第一子扱いとなると、自分が働いた分だけ持って行かれる、という意味の分からない現象になる。保育園は保育園なりにこまごまいろいろお金はかかり、働いている意味があるか疑問になる。病後児保育にしても、他市では1日1,000円、印西市では3,000円であり、賃金の半分以上が保育にかかる。学童保育では、子どもは元気でも、学校が学級閉鎖になると休みとなって働けなくなる。改善してもらえればありがたい。日曜や祝日が休みの人ばかりでなく、アンケートに書いていない人の現状も考えてほしい。働きながらも一生懸命育てている親もいる。ショートステイも、習志野なら乳児院と市が契約し、生活保護世帯や非課税世帯は免除、そのほかは何歳児はいくらとなり、市からの援助がある。必ずしも、祖父母が近くにいる家庭ばかりではない。

【事務局】今後の検討課題としたい。

【小谷委員】印西市の働くお母さんは増えている。土日の働き方も変わっているか？以前は土日の利用はほとんどなかった。

【岩井委員】自園では、今は休日保育の事業はやっていない。

【小谷委員】希望者がいないのか？

【岩井委員】保育士不足で事業を停止しているが、ニーズはある。

【梅元委員】他の保育園利用者が休日保育を利用すると、一時預かりになるのか？

【岩井委員】そういう形となる。延長保育も7時から19時以外の時間は個人負担が生じる。

【梅元委員】今のお母さんたちの働いている仕事内容からいうと、日曜・祝日いずれか出勤できるかが採用条件になっている。日曜日と祝日ができないために正職になれない人もいる。スーパー、コンビニで働く場合でも、日・祝日勤務がカギとなっている。

【事務局】資料の72ページの就学前児童の調査結果で、土・日の利用希望調査結果を参照いただきたい。

【小谷委員】子どもが小さいときにはアンケートにもなかなか回答できない。

【梅元委員】今回のアンケートは大変だった、書いたら寝不足になったという話があった。

【小谷委員】私立幼稚園、公立幼稚園、就学前、就学児ということで、保育園はとっていないのか？アンケートを出していない人たちに、該当者がいるかもしれない。

【梅元委員】アンケートに選ばれなかった人で、書きたいけど書けない人もいたかもしれない。

【事務局】幼稚園については、4枚程度の簡単なアンケートであった。保育園児用の調査というものはなく、就学前調査が保育園児、幼稚園児対象となっている。

【小谷委員】72ページの数字はどのようにみればよいか。

【梅元委員】幅広い人の中でのパーセンテージで、保育園に限定すれば違う結果になるかもしれない。

【事務局】結果については、あくまでも結果ということでご理解いただきたい。利用したい人がいるということは確認できており、休日保育の需要があるということは明確になっている。

【小谷委員】西林委員に、事業所の現状とか、サービス業の雇う側で見るとどうかお聞きしたい。

【西林委員】就労されている方は主婦が多い。お店によってはシフト制も取っている。365日営業のため、お盆とお正月に出られることが募集条件になっている。レストランなど、朝の仕込から昼までの4時間の短時間の仕事もある。土日、お正月、お盆は来てくださいということが多い。当施設でも常に人は足りていない状況。ニュータウン地区は店舗が乱立しており、学生がいないことから、求人は主婦に頼っている。大学生は都内でバイトして帰ってくるため皆無。

【小谷委員】就労者は、市内居住者が多いのか？

【西林委員】北総線の交通費が高いため、パートやアルバイトには交通費を出さない企業もある。その関係で地元の方が多い。自転車もしくはマイカーという募集も多い。

【前田委員】93ページですが、満足度でファミリー・サポート・センターが低い理由は？

【事務局】理由については調査していない。

【前田委員】自分自身は提供会員で登録しており、過去にお子さんを預かったこともある。10年くらい前は、そのようなサポートがなく、ずいぶん苦勞した思いがある。お金を出してもいいから、二次保育を探していた。今、思うとファミリー・サポート・センターがあればよかった。評価が低いのは残念。

【コンサルタント】今後、調査の自由記入欄の内容を精査する。なお、印西市だけでなく一般的に、ファミリー・サポート・センターの利用者自体がそれほど多くないので、どうしても評価が低く出てしまう傾向もある。他市町村でよく聞かれるのは、利用会員は多いが提供会員の登録が少ないため利用しにくいという話。利用したい人と提供会員のマッチングが難しいということも。利用したい人にとっては、期待の大きさの表れともとれる。

【前田委員】3日から4日前の予約で、当日の予約では利用できない。

【梅元委員】それが利用の難しいところ。

【前田委員】通っている幼稚園や保育園で預かってもらえれば一番いい。

【服部委員】女性の多様な働き方が増えている。多様な保育ニーズに対応することが大事。

【事務局】印西市には印西市独自の課題がある。市内の中でもニュータウンと既存地区などエリアごとに課題やニーズが違うと思われる。地域別集計により、それを反映しながら計画を作成していきたい。

(3) 今後のスケジュール

○事務局より説明

今年9月までには計画素案がまとまっている状況にしたい。6か月の間に3回くらいの会議を予定。

次回は4月～5月の予定。

(4) その他

【西村会長】幼稚園として心配なのは、このままだと27年から施設型給付を受けることになる。どこかで決断しなければいけない。施設型給付を受けるかどうかについては、市が問い合わせしてくれるのか。

【事務局】10月から施設の確認の作業、子どもの認定をする。その前に各園の方で施設型給付にするかどうか決めていただく。投げかけはすることになる。

【西村会長】それが6、7、8月くらいか？保育園でも同じ状況かと思う。保育園も施設型給付になり、補助金の流れが変わる。

【事務局】保育園に関しては、保育料は公定価格に基づいてやっていくことになるので、給付型の対象施設としてスムーズに移行していく。運営費の支払いも現状とあまり変化ない。

【西村会長】お金の性質は変わる。

【事務局】具体的な保護者の負担や補助については、公定価格が出てきてからの話となる。

【西村会長】措置で来るのか、クーポンスタイルで来るのか。施設型はクーポンスタイル。性格が違うし、

5年間は決めればそのままだろう。

【小谷委員】高校生世代の流出があるか確認したい。若い人が根付かないと…。長いスパンでの印西の将来が不安。

【前田委員】子どもが高校生になって転出する家庭もある。

【事務局】大学を出て20代の人が出出して、30代の人が入ってくるということはある。高校生に関しては今後調べてみる。

【小谷委員】ニュータウンに当初入居した人が、今でもいるのか。

【事務局】入れ替わりはある。

【小谷委員】高校生がいらないというのは心配。人手がいなくて…ということがないように。

4 その他

○事務局より連絡事項等

委員報酬と次回会議について説明。

○人事異動に関してあいさつ

- ・伊藤課長のあいさつ
- ・高橋部長のあいさつ

5 閉会

平成25年度第2回子ども・子育て会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

平成26年5月16日

子ども・子育て会議委員 西林 千秋

子ども・子育て会議委員 西村 信